

一心太助の天秤棒 ～前の籠には責任を、後の籠には信頼を 肩に担いで歩き～



越谷市会議員 白川 ひでつぐ
シリーズ/NO 112



Web サイト



Youtube



Twitter



Spotify

駅頭は小さなドラマの連続だ！

初当選以来19年間毎日毎朝続ける東武鉄道の市内6駅での朝、夜の駅立ちは、通算3800日を超え5期目残り1年を切りました。私の日々のツイッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前の様々な市民との出会いや何気ない駅前の風景、市民の日常を通した暮らしへの息遣いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。

白川ひでつぐ公式チャンネルの登録者は現在88名です。100名を超えると、スマートフォンでのライブ配信をすることができます。より身近な配信のため、ご協力をお願いします！

チャンネル登録



沖縄戦の遺骨問題を政治的に判断すべきでない

今朝の駅立ちは、6月越谷定例市議会の最終日で、午前10時から本会議が開催されたため、意見書「沖縄戦戦没者の遺骨等を含む土砂を埋立てに使用しないよう求める意見書」についての賛成討論に立ち、ほぼ徹夜状態でその準備をしたため中止した。

沖縄県辺野古基地の拡張計画に伴い、大戦の激戦地となった島の南部地区を中心とする戦死者の遺骨が混在する土砂を使用する事に反対する意見書。

本会場では、最大会派の自民党（8人）は、提案者（立憲市民ネット、私は賛同人）に対して1人が質疑をしたが、全員反対した。

しかし、反対討論には誰一人も立たなかったため、一体何故反対なのか、質疑をした自民党

議員がその冒頭に、「我が自民党越谷市議団は沖縄戦で亡くなられた県民、遺骨の問題は大変重要な問題として認識している」と発言している。それでは、何故反対なのか最低でも討論をして説明する責任を果たすのが会派及び議員としての責務ではないのか。

沖縄県民や全国から動員され戦死した魂とその遺族に対して、どう説明するのだろうか。

採決は、自民党や刷新クラブの反対はあったものの賛成多数で採択された。

もともと、埼玉県議会では、最大会派の自民党も含め全会一致で採択されている。

その意見書と今回の越谷市議会での意見書の文言はほぼ一致しているのだが、これもどう説明するのだろうか。

遺骨の混在した土砂の使用は、政治的対立や政策や理念の違いで判断する事案ではないことは明白にもかかわらず、政治主義的な思考だとすれば残念でならない。

<https://www.youtube.com/watch?v=1549emVSnsg&t=821s> (6月20日・月曜日)

10000円のカンパに恐縮した

今朝の駅立ちは、せんげん台駅東口で通常通り午前5時15分から午前8時30分まで市政レポートの配布を実施した。

午前8時過ぎに、中年のご夫婦の妻の方から声がかかった。いつか一心太助に掲載された整形外科は何処ですか、とのお尋ねだった。

この女性の知人から市内で評判のいい整形外科を知らないかと聞かれて、私の事を思い出したとの事。直ぐには、返答が出来なかったが、その後戻って来られて時に、花田にあるやざわ整形外科だとお話した。丁寧にお礼をされたので恐縮した。またカンパ箱にカンパを頂いのだが、終了後確認したら何と1万円札が入っており、再び恐縮してしまった。

この日午後6時30分から第2回「白川ひでつぐの駅前市民対話集会」を大袋駅西口を会場にライブ中継で実施した。当日は、6月越谷定例市議会の報告が中心となったが、①沖縄県辺野古基地への遺骨が混じる土砂の搬入を止める様に政府への意見書②夫婦別姓、選択的夫婦別姓の法改正の審議を進める意見書等の採決結果について報告した。

https://www.youtube.com/watch?v=9wGld_xMS4U

(裏へ続く)

第1回を5月22日、福田晃越谷市長をゲストスピーカーに招きせんげん台駅西口で開催したが、その場で市民の陳情が4件寄せられた。

同駅西口の車道の歩道側のポールが1本無くなっている、ケンタッキー・フライド・チキン前の点字ブロックが破損している、同駅東口のバス停の屋根から雨漏りがしている、同じく床屋前の歩道に常時水が溜まっている、と言うものだった。

その後、市役所の関係部所の課長さんに善処をお願いして3件は直ぐに改善して頂き、水たまりの件は少し時間をかけて改善するとの事だった。



(6月22日・水曜日)

6月タウンミーティング “ヒデチャン家で雨宿り”

毎月定例開催している私のタウンミーティングを、6月25日(土)午後7時からYouTubeチャンネルでライブ配信した。

テーマを毎月設定しているが、今回は梅雨にちなんでのものとなったが、毎回テーマには程遠い進行となるのだが、それが何時も面白い展開となっている。

この日も、インタビューアーに山田裕子越谷市議が引き受けて頂き、山田議員はズームを通じた市民からの質問や意見へ自身のコメント

もして頂き、時間が1時間をまた過ぎてしまった。

保守系無所属とはどんな政治的立場か、参議院選挙の選択の基準は、地方参政権は必要か等の質問に答えた。

これまで、毎月13人もの地方議員や市民にインタビューを担当して頂きたが、其々の個性も発揮されるので、毎回楽しみにしている。

<https://www.youtube.com/watch?v=IeOUvvhG7D8>
(6月25日・土曜日)

来年の市議選に向けて、政治塾を開講

来年4月には統一地方選挙が予定されているが、参議院選挙の投票率は50%前後と相変わらず低いことが想定されている。

投票率は国政でも地方でも長期低落傾向にあり、特に市民に最も身近な市議会選挙は30%台が定着してしまっている。

確かに、選挙の定番の街宣車からの名前に連呼や、選挙前だけの駅前街宣、抽象的な検証出来ない公約の羅列など、選びたくても選べない環境にあるのは事実だ。

そのため選挙文化を変えようと市民が強く思い立っても一体どうやって選挙をやるのか、分からないのが現実だろう。

そこで、選挙の具体的な準備や公約の作り方を6回の講座で開催する。

第1回はキックオフ集会で「私が当選したワケ・落選したワケ」をテーマに現職の地方議員2人、そして残念ながら落選した市民の3人でパネルディスカッションを6月26日(日)午後1時30分から会場の春日市市民活動センターで開催した。主催は私が代表をしている市民団体の埼玉政経セミナー。



<https://youtu.be/aG-RZrKApNU>

(6月26日・日曜日)